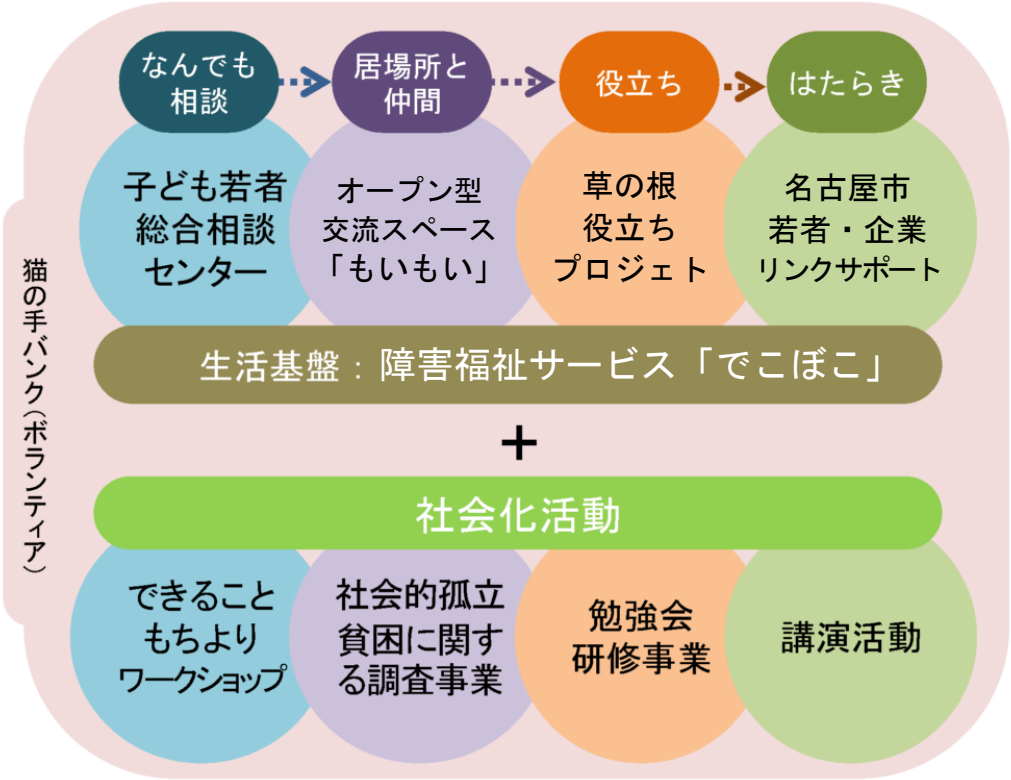
令和２年度 事業報告　令和２年５月～令和３年４月

『誰もがありのままを認められる暮らしの中で、ひとりひとりの
小さな一歩を大切にしあえるやさしい社会にしたい』

という理念のもと、制度や支援の手が届かずに社会的孤立や貧困に苦しんでいる方の支援を「仕方がない」とあきらめるのではなく、すべての方が安心して居られる場所・活躍できる場所を見出せる社会となることを目指し、次頁以降１～６の事業を行った。

＜草の根ささえあいプロジェクトの事業＞



INDEX

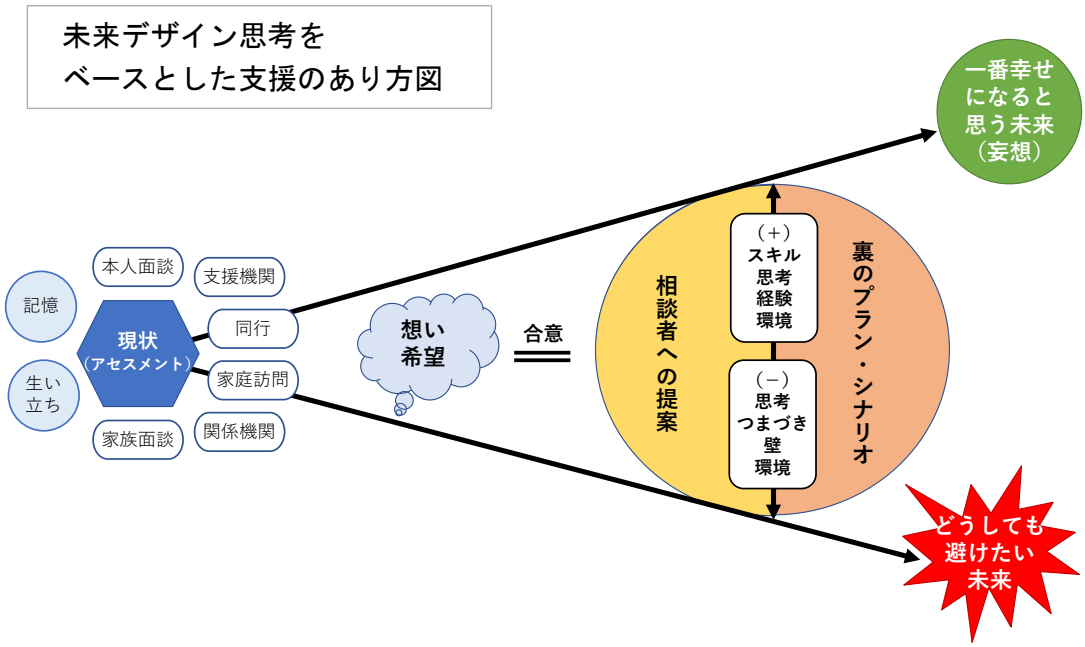
1　研究会の開催 2
2　相談・支援事業 4
3　生活支援事業 9
4　就労支援事業 11
5　地域コミュニティ事業・ネットワーク創出事業 13
6　普及・社会活動事業 14

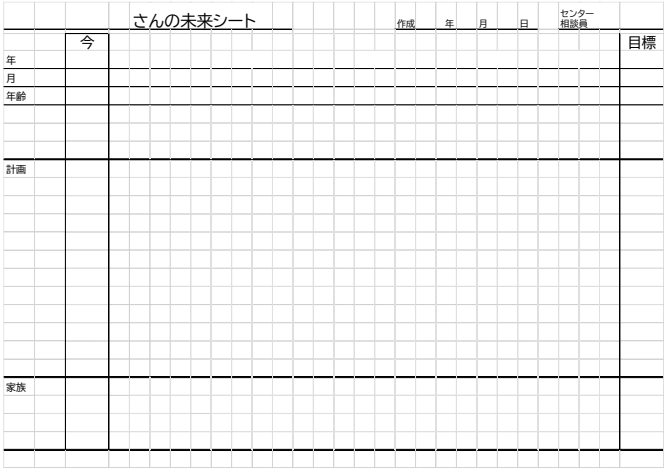
1　研究会の開催

ｉ）未来予想図研究会

名古屋市子ども・若者総合相談センターに来所する多様な相談者に対し、それぞれの相談者の「よい未来」「今より広い可能性のある未来」を予想し、そこから逆算した、未来思考のケースワーク・面談が行えるよう、シートを開発し、毎月事例を出し合う研究会を行った。

期間：2020 年 7 月 14 日（火）～　月 1 回開催




さんの未来シート　作成　年　月　日　センター相談員

	今		目標
年			
月			
年齢			
計画			
家族			

一人ひとりの相談者さんに対して丁寧に未来を予想しプランニングするにとどまらず、シートを作成することで、目指すべき未来を相談者と支援者の間で共有値にしていくシート。

ⅱ）リンクサポート研究会

名古屋市若者・企業リンクサポートの相談者さんのクラスター分析を行い、それぞれのクラスター群に対する特徴とそれに対して有効な支援方法を模索する研究会を行った。

分類

	カテゴリ	ヒント＆支援方針
Ⅰ	リンクのやり方で手ごたえのある方	スピードアップの方法を探る
Ⅱ	生きるエネルギーや自己肯定力が低く、「働きたくない、生きていたくない」に振れがちな人	・キラリと光る「弱さ」をベースに、多様な職種×多様な働き方を模索 ・人間への信頼感が弱いため、包容力のある「人」につなげる ・こわかで担当すると長期化のおそれがあるため、ここをリンクの得意ゾーンとする
Ⅲ	主に認知のズレにより、人間関係のトラブルを起こしがちな方	・光る強さがあるために社会と喧嘩してきた人が多い ・年齢が高い人ほど攻撃的になりがち ・インテーク時に認知のズレがわかりにくく、のちに明らかになる場合も ・本人の世界観を大切にした支援
Ⅳ	生活面など、働く前の支援が必要な方	リファー先の開拓・地域での見守り

※ 今後、Ⅱのカテゴリの方に有効な、支援方法・ツール等の研究を深めていく

２ 相談･支援事業

◆名古屋市子ども・若者総合相談センター（名古屋市受託事業） ：平成 25 年 6 月～
ｉ）センター業務

０歳～概ね３９歳までの、名古屋市在住の方の相談に応じるワンストップセンターとしてあらゆる相談に応じる。問題解決のために「来所相談」にとどまらず、アウトリーチ、同行支援、ボランティアの活用、就労支援、支援機関の開拓連携（ケース会議）などの＜機能＞を駆使し、困りごとを抱える本人やご家族によりそうセンターとして、運営実施を行った。

令和元年度より名古屋市における子ども・若者指定支援機関に位置づけられ、相談窓口の増設（金山ブランチの新設）や支援機能の拡充（オープン型交流スペース・SNS 相談）に伴い、それまで相談に結びつかなかった若者にも出会うことができるようになった。

また、義務教育を終える子ども達への絶え間のない支援を目的として、学校連携コーディネーターを中心とした子ども応援委員会との連携を強化し、多くのバトンをつなぐことができた。コロナ禍においても相談者へのアクションの手数は維持するように務め、相談者実数、延べ相談件数とも前年度より大きく増加した。相談件数が増えたことで、支援のクオリティを落とさないよう、研修プログラムの充実を図り、スタッフの人材育成に力を注いだ一年でもあった。

さらには、新型コロナウィルスの流行に伴い、社会情勢や価値観が大きく転換する中、若者支援のあり方の模索や、新しい課題に対応する力量が求められる年となった。

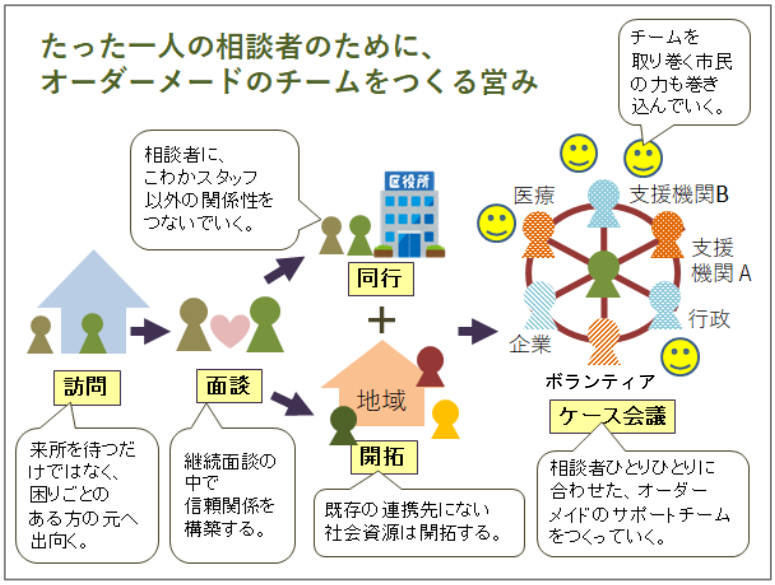
＜センター運営方針＞

１．相談者一人ひとりに手間暇を惜しまない「よりそい型」支援

○ 本人を中心としたオーダーメイドの支援 ○ アウトリーチ・同行による支援

２．地域全体で若者を支える、ネットワーク力（地域力）の構築

○ ネットワークによる包摂的な課題解決
○「地域」と「子ども・若者総合相談センター」が育ちあう関係性の構築



【令和2年度実績】

センター	相談者実数	966 人	延べ相談件数	9,203 件
	ケース会議	810 回	アウトリーチ	2,825 件
	連携機関数	360 件	延べ連携機関数	5,907 件
	学校連携（ケース会議実施機関数）	66 機関	子ども応援委員会と連携したケース数	79 人
	ボランティア稼働数※１	608 件		
LINE 相談	相談者実数	784 人	延べ相談件数	2,945 件
	センターの相談につながった人数	50 人	本人からの相談割合	88%
オープン型交流スペース ※２	利用者実数	714 人	延べ利用者数	5,353 人
	センターの相談につながった人数	34 人		

※１※２：ボランティア活動とオープン型交流スペースは、令和２年４月～５月の間、新型コロナウイルスの影響により休止

ⅱ）オープン型交流スペース“もいもい”　　期間：令和元年 10 月 30 日～

名古屋市子ども・若者総合相談センター金山ブランチに新設された交流スペース。
対象者：市内在住の 15 歳～概ね 39 歳までの方が利用できる。*
開所時間：日・祝を除く毎日、14 時～21 時の間開所。**
*市内在住の学生の紹介による、市外在住同級生はフレンド会員として利用可能。
**令和 3 年 6 月現在は感染拡大防止のため、2 時間 50 分ごとの 2 部制になっている。

※令和 2 年 3 月～5 月末まで新型コロナウイルス感染症拡大防止に基づき、閉所

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、令和 2 年 3 月～5 月末まで閉所した。閉所期間中は、SNS を通じて、スタッフによる企画動画の配信を積極的に執り行ったほか、継続的なコミュニケーションが必要と判断した利用者へ、個別に声をかけるなど、できる範囲のアクションを実施した。

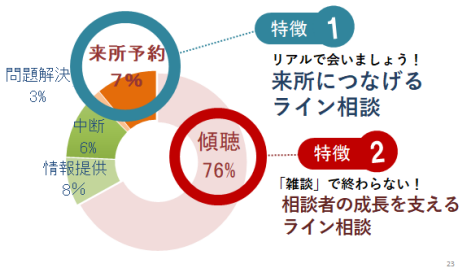
令和 2 年 6 月からの再開時は 2 時間ごとに利用を区切る 3 部制を導入し密を回避したほか、ソーシャルディスタンスをやわらかく意識してもらうため、随所にぬいぐるみを配置するなどして、感染症拡大防止に努めた。また 10 月からはイベントの再開も可能となり、季節ごとのイベントのほか、様々な生き方や考え方を持つ毎月ゲストスピーカーを招き、新たな社会の一面に触れる「〇〇なひとの話を聞く会」は人気企画となった。

ⅲ）LINE 相談　　令和元年 10 月 31 日～

15 歳～概ね 39 歳までの方を対象として、（月）～（土）の 17：30～21：30 の間実施。若者本人からのアクセス率が 9 割近くに上っており、困難を抱えた若者本人の心情やライフススタイルに寄り添った、より直接的なアプローチができるようになったと言うことができる。

ライン相談の概要

名古屋市子ども・若者総合相談センター
のLINE相談の特徴

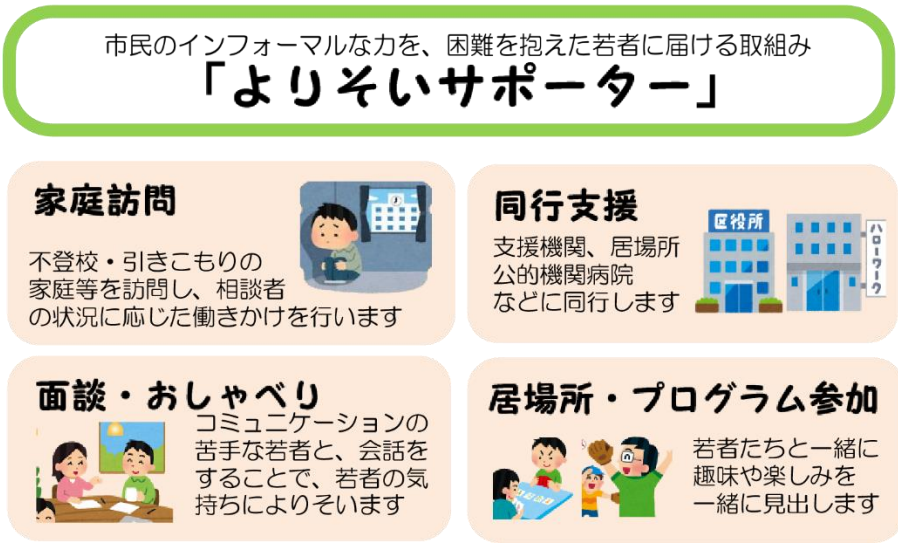


死にたいと毎日繰り返す女性や、自分探しをしたいと悩む男性、ゲームやアニメの話に終始する軽い知的障害のある方などがあり、言語化できない漠然とした不安な状態でも話しができる、相談のハードルの低い窓口になっている。センターの LINE 相談では、それら若者を SNS 上の関わりにとどめることなく、来所相談や居場所への来所を促すなど、顔の見える相談につなげることを目的としている。その結果、7%が LINE 相談から直接相談につながっており、新しい SNS 相談のあり方が確立されてきたと言える。

ⅳ）子ども・若者総合相談センターボランティア『よりそいサポーター』

期間：平成 27 年 9 月～

子ども・若者の支援に取り組んだ経験のあるかたや、資格を有した方の他、若者支援に熱意・関心のある地域市民の方がたにボランティアとして、子ども・若者の支援を行っていただく。



※親密な他者として、よりそい応援してくれる人の存在※

＜令和２年度実績＞
◇ボランティア登録人数：161 人
◇稼働件数：６１５件
◇稼動内容：
・引きこもり、不登校の方の家庭訪問・学習支援・居場所同行・支援機関同行
・センターでの傾聴（おしゃべり）・創作活動・遊び（スポーツ・ゲーム・囲碁居場所での支援）など

平成 27 年 4 月～平成 29 年 7 月に行った「名古屋市子ども・若者総合相談センターサテライト事業（名古屋市受託事業）」（名称「ちくさ 815」）で培った経験を活かして、居場所に行けない人のための、少人数での居場所プログラム「こわかランド」も継続して実施し、そこでもよりそいサポーターは活躍している。（スタディランド、クラフトランド、イラストランド、女子会、アニメ会など）

新型コロナウイルス感染症拡大防止に基づき、4 月～5 月までのサポーター活動は中断を余儀なくされたが、6 月より開始し、4 回のサポーター交流会も実施した。サポーター交流会では、ZOOM でのオンライン交流会を企画するなど新しい取り組みにも挑戦した。

専門家としてではなく、同じ地域で共に暮らす大人として、
一緒に悩み・考え・行動しています。

v）草の根ホッとライン

期間：令和 2 年 6 月～

令和 2 年度に全世界的な脅威となった新型コロナウイルスの感染拡大によってもたらされた経済活動の自粛によって、これまで既存の相談支援では補足しづらい人々が新たな困難層として可視化された。それに対応するため既存の名古屋市子ども・若者総合相談センター、名古屋市若者・企業リンクサポートで対応できない、40 歳以上、名古屋市外の相談者も対象として、生活全般の困りごとの電話相談を開始した。

相談の内訳としては、名古屋市の周辺市町村の人からの相談や、全国的な知名度を持つ支援者/支援団体に相談して、本事業を紹介されたケースなどが特筆される。

コロナ禍で深刻化する自殺念慮、若い女性をめぐる問題、DV についてオープン型の研修を行ない、地域全体で対応できるような支援者の知識・スキルの底上げを図った。

さらに、名古屋市内 20 ヶ所以上の子ども食堂に対してアプローチを行ない、コロナ禍でも子どものために活動する志ある方々との連携強化を行った。この連携による情報交換の結果、ヤングケアラーなど、地域に存在している微かな SOS をキャッチできていない事実に直面したことで、これまで以上に社会資源の開拓とつながり続けることの重要性を改めて深く認識した。

草の根ホッとライン　アクション内訳（令和 2 年 6 月～令和 3 年 4 月）

実相談および支援業務	電話相談件数	24 件	ケース会議	3 回
	専用フォームからの相談件数	6 件	生活支援（現物支給）	7 回
	実支援稼働数	105 件	継続相談電話	24 回
	家庭訪問	9 回	継続メール件数	61 回
相談者内訳	総相談者数	15 人		
	地域別相談者数	名古屋市内 6 人、市外 9 人		
	年齢構成	20 代３人、30 代２人、40 代３人、50 代３人、60 代以上２人、未回答２人		

研修内容と参加者数

研修テーマ	講師	開催日	参加者数
自殺念慮に対するケアとグリーフケアについて	一般社団法人日本産業カウンセラー協会 中部支部 清水 達也 氏	令和３年２月６日	28 人
望まない妊娠等若い女性を取り巻く問題について	ココカラウイメンズクリニック 院長　伊藤 加奈子 氏	令和３年２月 27 日	18 人
ドメスティックバイオレンスについて	NPO 法人あゆみだした女性と子どもの会 理事長　廣瀬 直美 氏	令和３年３月 14 日	22 人

３ 生活支援事業

ｉ）でこぼこ（障害福祉サービス）

期間：平成 25 年 7 月～

主として名古屋市内で、障害者総合支援法に基づく、居宅介護、重度訪問介護、行動援護、移動支援などの障害福祉サービスを提供した。人は違って当たり前、みんなが同じ社会で生きる生活者であって「できること、できないことのでこぼこを持った人の集まるところ」。そんな想いが『でこぼこ』という名前に込められている。

☆令和元年 10 月 15 日より事業所名を「でこぼこ」に改め、障害者総合支援法に基づく、行動援護、名古屋市の移動支援事業のサービスを提供する事業所として再スタートいたしました。

（令和 3 年 4 月 30 日時点での利用者数：行動援護 14 名、移動支援 11 名）

＜でこぼこの理念＞
全ての人が生きることってすてきだなと感じられるために…

１）**弱さも強さも**含めた全ての人の**可能性**を信じます
２）それぞれの人がふみだす**小さな一歩**をお手伝いします
３）利用者もでこぼこもかかわりあいのなかで
学び、育ちあいます。

＜千種区自立支援連絡協議会の参加＞

名古屋市内の各区において自立支援連絡協議会が運営されています。でこぼこの事務所がある千種区の自立支援連絡協議会の構成員として参加し、地域の課題等に取り組んでいます。

ⅱ）猫の手バンク

期間：平成 25 年 5 月～

既存制度やどんな施策にも当てはまらない方々にボランティアが家庭訪問し、生活課題を解決する。当団体の「名古屋市子ども・若者総合相談センター」や「でこぼこ」、「名古屋市若者・企業リンクサポート」等の、支援事業ではカバーしきれない困りごとを抱えた方の相談に関して、猫の手バンクが稼働し対応した。

猫の手バンクのメニュー

通訳（同行・仲介）

◎病院同行、主治医訪問
◎家族との仲介
◎支援機関の同行と仲介　など

訪問・見守り

◎定期的な家庭訪問
◎引きこもりの方への訪問
◎継続的なカウンセリング

申請手続き

◎生活保護の申請手続き
◎滞納金（電気・ガス・電話）の支払手続き　など

身の回りのサポート

◎部屋の片づけ（ごみ屋敷等）
◎住まいの営繕 ◎買い物同行
◎食糧支援 ◎入退院手伝い　など

遊び・まなび

◎趣味や興味を一緒にする
◎お茶や食事を一緒にする
◎低所得家庭への学習支援
など

コミュニティへの参加

◎就労支援
◎社会資源の開拓
ボランティア先・居場所・企業・学習の機会　など

4　就労支援事業

◆名古屋市若者・企業リンクサポート事業（名古屋市受託事業）

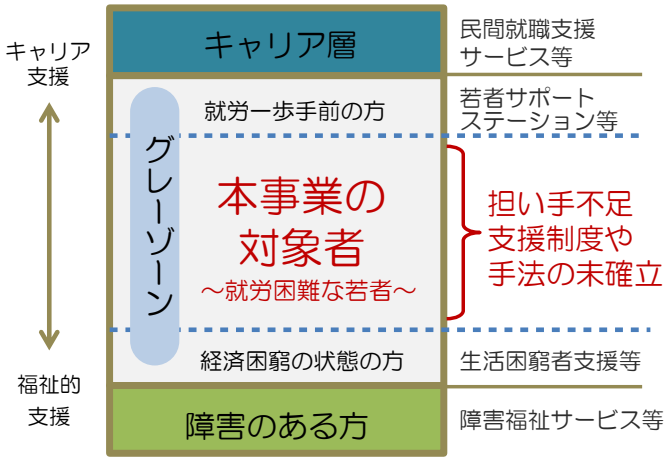
期間：令和元年 10 月 30 日～

若者と企業がお互いを大切と感じ、そこから「優しさ」が広がっていく社会を目指し実施。

『働くことが難しい』若者と、若手を『採用＆戦力化できず悩む企業』との仲介に立ち、双方の悩みを同時に解決する就労支援を行うことで、

「全ての若者が、社会にとって『なくてはならない人』となれる優しい社会」を目指す事業。

右図のように、今までの支援構造の中で空白になっていた就労困難な若者のゾーンにアプローチする新しい試みであり、試行錯誤の中、“就労困難な若者と企業が、潜在的な可能性を引き出し合う姿”を日常にしたいという思いでスタートを切った。



大方針：「仕事に人を合わせる」から『人に仕事を合わせる』へ

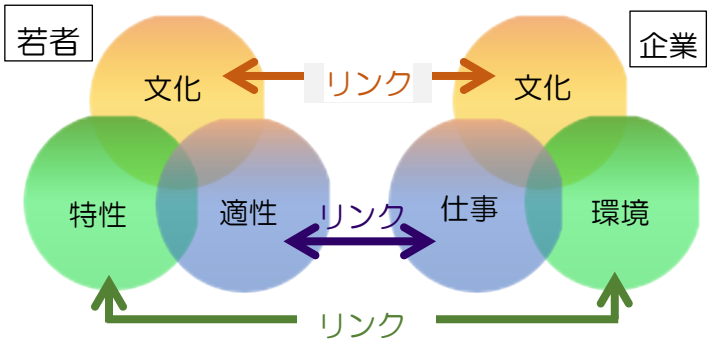
訓練等により仕事に若者を適応させていくのではなく、ひとり一人の持ち味や能力に＜仕事を合わせていく＞ことを、一番のポイントとしている。

方針１．若者と企業の相互成長を生み出す ＜３つのリンク＞ の実現

【リンク①】企業と若者のお互いの文化性（価値観）が近く、尊重しあうことができる

【リンク②】若者の適性を活かせる仕事が企業にあり、若者に提供ができる

【リンク③】若者の特性に合わせた環境調整が、企業の強みを生かした方法で実施できる



方針２．アウトリーチを軸にした、アセスメントと実支援の同時進行

若者・企業双方の丁寧なアセスメントを何より大切にすることを 2 つめの方針とした。

アセスメントの実施は、面談室での相談初期に留まらない。若者がまだ就労手前の段階の「連携支援」から、実際の「就労準備支援」、そして企業に出向いての「戦力化支援」まで、家庭訪問・同行・企業訪問と、アウトリーチを積極的に行い、継続的なアセスメントをしていく。

＜リンクサポートの特徴と実績＞

障害福祉サービスや他の支援機関の就労支援・プログラムには該当しないが、生きづらさや働きづらさ、経験の不足等を抱えた若者を対象に、企業見学・実習を経ながら環境を合わせていく、「環境支援型就労支援」を実施。また、企業、経済団体、ハローワークで「就労困難な若者の採用、育成、戦力化のポイント」等のテーマで研修を実施。広くリンクサポートの意義を伝えるためのイベントも実施し、支援機関、企業関係者、行政関係者、研究者など幅広い分野から定員を上回る 170 人の参加があった。令和 3 年 2 月には 2 回新聞に活動が取り上げられ、その反響により相談件数が増加している。

◆実績：令和 2 年 4 月～12 月（8 ヶ月）

相談者数		108 人
支援件数	本人面談	2,123 件
	企業見学	114 件
	連携会議	60 件
就労件数		50 人

◇中日新聞（令和 3 年 2 月 4 日）

学ぶ

#不登校　悩める若者の就労支援（下）

「合う職場」で自立目指す

若者の就労支援を担う窓口「名古屋市若者・企業リンクサポート」（同市中区）。支援を受けて就労につながり、次の目標に向かって働いている不登校経験者2人に話を聞いた。（北村希）

「漫画を仕事に」夢持てた

名古屋の池田和歌子さん（30）

幼い頃から日本人特有の〝察する〟や〝暗黙のルール〟というのが苦手で、クラスでも浮いていたんだと思います。小六の時に周りに無視され、学校に行かなくなりました。中学入学後も周りの視線が気になり、別室登校になりました。

中二の頃、良い家庭教師に出会えて勉強が楽しくなり、前向きに考えるようになった。他人の感情がない、自我を強く持とうと思えるようになりました。

通信制高校を卒業してから就活を試みましたが、なかなかうまくいかず、時間がもったいないと思いパートを転々としました。就活の面接は圧迫感があり上から目線で、もっと対等に見てほしかった。学歴とか資格は重視するけど、社風に合った人かどうかまでは見てくれていないと感じました。私の場合、就活で不登校経験には触れることもなく、関係なかったです。

パートは接客や事務、部品組み立てなどを経験しましたが、上司からのあいまいな指示などが合わず、長続きしませんでした。そんな中、昨年二月、ポスターでリンクサポートを知り、訪ねました。

スタッフさんと話したり、いろんな職場を見学したりする中で、細部まで理解していないと集中して取り組めない、少ない情報で全体を理解する力が弱いという特性に気付けました。趣味で描いている漫画を仕事につなげたいという夢もはっきりしました。

昨年十二月から、漫画家を目指しつつ、レンタルオフィスの受付管理として働いています。採用前に特性を伝えていたからか、どんな細かい質問にも優かく答えてくれ、安心して働けています。自分に合う職場なんて絶対にないと思っていたので、驚いています。

強み分かり人生動いた

名古屋の男性（22）

小三の頃、いじめが原因で学校へ行かなくなり、勉強の遅れを取り戻すのが面倒でそのまま中三まで不登校でした。中二の時に親が離婚し、同居の母が精神的な病気だったため、高校進学もせずほぼ家に引きこもり、家事とゲームの日々。二十歳になり、将来どうなってしまうのかと思いつつも、何から始めればいいのかも分からず。そんな中、生活保護を受けていた関係で昨年リンクサポートの支援につながりました。

仕事の初歩から教わるためにバイトから探すことになりましたが、部活や習い事もしたことがなかったので、まず自分が何が好きで何ができるのかすら分からなかった。それでもスタッフの方は、家事全般が得意なことやストレスのコントロールがうまくできるという強みを見いだしてくれました。働いた経験が全くないことを企業側に伝えながら応募し、昨夏、飲食店に決まりました。

学習も会話力も不十分だったのでバイト先でうまくやれるか不安でしたが、一から教えてくれて問題ありませんでした。違う年代の人と話すのが楽しいです。今はバイトをしながら高卒認定試験と車の免許取得のために勉強し、二十五歳までには正社員として自立したいと思っています。

一人じゃ人生が何も動かなかったので、頼れる場所に頼ることは本当に大事だと実感しました。

スタッフ＝名古屋市中区の市若者・企業リンクサポートで

◆就労先（例）

・海洋研究所での研究補助　・シェアオフィス受付　・学童保育所での指導員
・飲食店スタッフ・タクシードライバー（2 種免許取得サポート有）
・広告デザイン　・写真スタジオ撮影補助・医療事務　・社労士事務所　・電報の作成
・食品工場での製造　・機械工場での製造　・車両整備士　・ガソリンスタンド
・スーパー品出　・デイサービスの調理　・建物管理（宿直）他多数

<u>→本人のアセスメントから見いだした、一人一人に合わせた多様な職種での就労が特長</u>

５　地域コミュニティ事業・ネットワーク創出事業

ｉ）できることもちよりワークショップ

重複した困難を抱えた相談者の事例を参加者全員で共有し、それに対してひとりひとりの「できること」を書き出して、みんなで共有する。「１人で支えられること、１０人で支えられること、１００人で支えられること」の差を知ることにより、多分野連携の可能性や有効性を体験するワークショップの普及実施を行っている。

令和 2 年度は、当法人の職員と、よりそいサポーターのみなさんと一緒に実施した。
日程：2021 年 3 月 13 日（土）10 時～13 時
場所：オープン型交流スペース「もいもい」
参加者：当法人職員、 よりそいサポーター有志の皆さん（p. 7）

６ 普及･社会活動事業

ｉ）イベント開催

① 「地域共生社会の実現に向けた包括的な相談支援体制構築」にむけた“草の根”研究会

日時：2020 年 11 月 27 日（金）14 時～17 時　場所：名古屋国際センター　会議室

(1) ＜制度の理念と概要＞
厚生労働省社会・援護局地域福祉課　包括的支援体制整備推進官
鏑木奈津子氏による制度の説明

(2) ＜グループでの対話＞

(3) ＜意見交換＞鏑木氏への質疑応答含む

(4) ＜ミニセッション＞ ゲスト：東近江圏域 働き・暮らし応援センター「Tekito-」 センター長 野々村光子氏

② 第 2 回 地域共生社会実現のための研究会

日時：2021 年 1 月 24 日（日）13 時 30 分～16 時　オンラインにて開催

(1) 「各地域事例の紹介と制度について」
厚生労働省 社会・援護局 地域福祉課
生活困窮者自立支援室/地域共生社会推進室
室長　唐木啓介氏

(2) シンポジウム「地域共生の事業を通してどんな未来（地域）が見たいか」

シンポジスト（*兼コーディネーター）所属、氏名	分野
慶應義塾大学大学院 健康マネジメント研究科 教授　堀田聰子氏*	高齢・地域共生分野
厚生労働省 社会・援護局 地域福祉課 生活困窮者自立支援室/地域共生社会推進室 室長 唐木啓介氏	
NPO 法人自殺対策支援センターライフリンク 副代表 根岸親氏	自殺対策支援分野
滋賀県東近江圏域働き・暮らし応援センター「Tekito-」 センター長　野々村光子氏	障害・困窮・就労分野
一般社団法人草の根ささえあいプロジェクト 代表理事 渡辺ゆりか	子ども若者・就労分野

ⅱ）下記の社員が、国・地方自治体等より講師・研修等の依頼を受け実施。

＜渡辺講演・講師＞

◆厚生労働省：

令和 2 年度 自立相談支援事業従事者養成研修 ・就労準備支援事業従事者養成研修 講師
講演名:「実践報告:就労支援の考え方と実施方法(オンライン開催)」

就労支援の考え方と実施方法 就労支援の様々な実施方法や企業への
アプローチ、支援のネットワー クづくりについて理解するとともに、
様々な支援に共通する、支援の 姿勢、大切にすべきことを講義。

日程:令和 2 年 11 月 20 日(火)16 時～17 時 30 分
参加者:生活困窮者自立支援の相談業務に就く方:480 名

◆文部科学省：

第 37 回全国青少年相談研究集会 講師

講演名:「新しい時代における青少年へのオーダーメイド型伴走支援と、
地域連携の新しいデザイン」
日程:令和 2 年 1 月 14 日(木)14 時 10 分～15 時 40 分

名古屋市子ども･若者総合相談センターの実践を中心に、コロナ後の社会における、
子ども若者を中心とした地域連携のあり方の講義

◆その他

◇ハローワーク主催「企業支援 Web セミナー」講師

講演名:「働きづらさを感じている方々の特徴と職場における戦力化と定着の方法」
ハローワークに登録の市内50社ほどの企業に向けて、オンラインにて、
リンクサポート事業で実践する、「環境支援型就労支援」ポイントを講演。
企業への受け入れや連携依頼も行う。

放映日:2月22日(月)～3月1日(月)10時

◇生活困窮者自立支全国ネットワーク 東海・北陸ブロック研修 報告者

講演名:「コロナ禍でどう生活を支援しているか―任意事業、他組織との連携を生かす」
名古屋市子ども･若者総合相談センターの取り組みを中心に、本人を中心とした
オーダメイドの支援が地域連携を編んでいく実践を報告

日程:令和2年12月9日(水) 13:00～16:30

＜永井講演・登壇＞

・富山県市町村等子ども・若者連絡会　～名古屋市子ども・若者総合相談センターの取り組み　～日時・2021 年 2 月 16 日(火) オンライン開催

・名古屋市児童相談所職員研修 ～名古屋市の若者をとりまく資源について＋社会資源開拓ワークショップ　～日時・2021 年 2 月 19 日(金) 場所：中央児童相談所

・名古屋大須ロータリークラブ定例会　～名古屋市子ども・若者総合相談センターの取り組み　～日時・2021 年 2 月 25 日（木）オンライン開催

◆榎本研修講師
・名古屋市精神保健福祉センター　令和２年度名古屋市ひきこもり支援サポーター養成研修　～日時・2020 年 10 月 28 日(水) 場所：名古屋市精神保健福祉センター

◆取材関係
・名古屋市若者・企業リンクサポート事業が、中日新聞で 2／3、2／4 の 2 日間に渡り、「悩める若者の就労支援(上)（下）」というタイトルで連載されました。